

令和4年12月17日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 令和4年度 第11回

#### コロナ&ワクチンを考える

おはようございます。ただ今、塚越参事から内容の濃い楽しい開会の挨拶をいただきました。ご友人もコロナに罹ったということで、「今年は、コロナに始まりコロナに終わる」と言っておられました。

この3年間で私は、コロナはいったい何故生まれてきたのか？ 自然発生したのか？ 或いは誰かが生み出したのか？・・・そういうことを考えるようになりました。物事を考える時は「判断の三原則」（本質・歴史・大局）をもとに考えましようとは何度も話しています。

コロナが自然発生したのであれば、コロナウィルスが誕生し、それが人間と共存していくということです。政府は今、コロナもインフルエンザと同じようなものだというように誘導していますから、今後はそういう流れでいくことが見えてきます。これとは別に、誰かが意図的にコロナを発生させたのであれば、これは目的がはっきりしているので、先々の進み具合も見えてきます。したがって、コロナはそもそもどのようなものなのか、これを今年の最後のテーマとして考えています。来年になったらそういう話が出来たらと考えています。

コロナワクチンについても、コロナウィルスの出だしが自然発生的であれば、ワクチンはどういうふうにして作られるかということを考えますし、人間が意図的にコロナを発生させたのであれば、ワクチンもおおのずから性質が定まってくると思います。

塚越参事の挨拶に啓発されて、冒頭にコロナについてお話ししました。なぜならば、来年はコロナが自然発生したのであれば、＜こういう対応をとろう＞ということが言えます。もし誰かが意図的にコロナを発生させたのであれば、来年のコロナに対する対応の仕方もまるで変わると考えています。

コロナの話を始めましたので、もう少し申し上げておきます。

コロナワクチンに関して見ると、日本はワクチンをかなり手に入れています。そうすると、例えばワクチンを作っている会社、特に日本に輸出してくれている製薬会社（当初は

日本に手を差し伸べてくれた良い製薬会社というイメージで登場したわけですが)は、一体どういう仕事をしてきたのかということが気になります。

自然発生的に出てきたウィルスを人間の知恵で何とか退治しようと思えば、そのワクチンはどういう性質のものなのか少しは見えてくる。或いは、意図的に作られたものであれば、ワクチンもそれに対応する性質を持つようになる。であれば、ワクチンを製造して日本に輸出した製薬会社は今までどのような事業を展開してきたのか、ということが少しは分かると思っています。

ちなみにワクチンの話で、何度も申し上げておりますが、コロナが出てきた最初の頃、おかしい言葉だと感じたのは、「副反応」でした。私は世の中に出てくる情報について、不可思議だ、よく分からないと思ったものについては調べる癖がついています。副反応とはいったい何か調べてみると、三種混合ワクチンにたどり着きました。

三種混合ワクチンは最初、日本の国民は打たねばならないと法律で義務付けられていました。ところが三種混合ワクチンを打ってしばらく経つと、各地で大変な副作用が起きた。これは政府の責任だと裁判があちこちで行われ、政府は負け続けました。その結果、三種混合ワクチンは打たねばならないという義務であったものが、法律が変わり、打っても打たなくてもよいという任意接種に変わりました。

では、他の国はどうか気になって調べました。例えばアメリカでは、やはり国民はワクチンを相当打っていました。結果として日本と同様に全米各地で裁判が起きました。製薬会社を相手に裁判が行われ、全部負けたかどうかは調べられませんでした。はっきり分かることは、製薬会社は裁判で負けて大変な賠償金額を払わされたということです。もう少し調べるとその製薬会社は、製造したワクチンというワクチンが常に裁判を起こされていきました。大量のワクチンを作り、そのワクチンによって酷い副作用が起きて、大変な金額の損害賠償を払わされていきました。その額はアメリカ史上、最高の金額に達しているようです。

ということで、製薬会社は常に裁判と隣り合わせである。そして、製薬会社はどれも負け続けている。しかしワクチンは大変な利益率を上げるものだから、相当な損害賠償額でも払い続けることができる、と分かりました。しかも怖いのは、裁判で負けたワクチンでも製造中止にはならず、ずっと製造し続けられていることが分かっています。

これらのことから、製薬会社は一体どういう歴史を持つのか、多額の損害賠償金が払える製薬事業とは一体どういうものなのか、じっくり腰を据えて調べようと思っています。

もう一つ、ワクチンの中身についても、もう少し調べたいと思っています。ワクチンは

一体どういうものが入っているのか、人間の体内に何が入れているのか、これについても調べなければいけないと思います。

ですから私の来年の課題は、ワクチンの中身は一体何か、ワクチンを製造している製薬会社の歴史を調べたいと思っています。それによってコロナに対する考え方が明確になり、ワクチンに対してどういう対応をするのかも明確になるとと思っています。来年の中斎塾フォーラムでのお話は、その辺から始めようと考えています。

先程の「副反応」という言葉は、副作用の酷いものと捉えましたが、三種混合ワクチンで政府が負けた以降は、ワクチンにおける副作用だけが「副反応」という言い方をしています。他の酷い副作用についてはそういう言い方はしていません。何年か経てば、日本の辞書に「副反応」と「副作用」が載るでしょうから、これも注目しておきたいと思っています。

### 健康長寿の秘訣

もう一つ、塚越参事が言われた「生き延びよう」ということについて、私はやはり来年も「生き延びよう」と強く考えています。生き延びるために必要なものは何か。何度も言うことですが健康長寿でいけば良い、「よく食べ・よく眠り・よく動く」、これがコロナに対する最高の防御法であろうと考えています。

「よく食べ・よく眠り・よく動く」ということを、具体的に私の場合でお話しましょう。

・よく食べ・・・出来るだけ顎が疲れるような食べ方をしようと思っています。口に入れたらすっと飲み込めるような流動食ではなく、よく噛まないといけないものをいただく。よく噛めば唾液が出ます。

それにプラスして、私は薬膳が好きなので、薬膳をもう少し食べたいと思っています。薬膳の中で意識的によく自分で取るものは、十全大補湯を食べます。疲れをとる薬膳だそうです。

食べ方は、三食きっちり食べます。注意している事は、朝は少し多めに食べる。そして昼はほどほど、夜は少なめです。食事の時間については、以前から「6・6・12の法則」という事を考えて実行しています。だいたい朝6時にご飯を食べ、6時間後の12時に昼を食べる。6時間後の6時に夕食を食べた後は、翌日朝ご飯を食べるまでの間は、大体12時間は置くようにしています。それが難しい場合でも、最低10時間ぐらいいは空けます。

・よく眠り・・・睡眠時間は平均して8時間とるようにしています。現役に戻ったら疲れるのです。本当に疲れたなと思うと、ボタンと寝て、起きるのが10時間後です。普通の

疲れ方でしたら8時間で回復しますが、ヘトヘトになると10時間眠らなければ回復しません。

眠りについて氣を付けていること、そして実際に自分で感じることは、若い時は朝、目が覚めるとぱっと起きたのです。今は、ぱっと起きません。目が覚めたら、頭を触ったり顔を触ったり、身体中をマッサージします。真向法の八木先生の話では、耳たぶも良いそうです。内股をこすったり、起き上がって足の指を手で挟んでギュッと押ししたり、等々をベッドの上で30分くらいかけて身体のケアをしています。ですから目覚めの時間が大事だと思っています。安岡正篤先生は目覚めたら布団を蹴飛ばして直ぐに起きなさいと言っておられますが、それは若い時の話ですよ。いずれにしても、眠る時と目覚めた時、両方とも眠りの範疇に入りますので、相当手入れをしています。

・よく動く・・・身体の手入れは朝、1時間はやります。いわゆるストレッチ、特に真向法を中心にしてやっています。私は月の半分くらいはビジネスホテルに泊まっているので、比較的広いところであれば、山崎先生に教わっている棒術ができるのです。ですから杖を常に持ち歩いています。何も持っていないなくても身体の手入れは出来ますので、年を重ねてくればくるほど身体の手入れをやっておいた方が良く存じます。

## 益

論語に参ります。本日のテーマは「益」です。では、素読を致しましょう。私の後からついて戴くようお願い致します。

① けつとう どうじ 闕党の童子 めい おこな 命を將う。 ある 或ひと これ と 之を問いて曰く、 えき 益せんとする者かと。 しいわ われ 子曰く、 そ くらい お 其の位に居るを見るなり。 そ せんせい なら ゆ み 其の先生と並び行くを見るなり。 えき もと 益を求むる者に もの あら 非ざるなり。 すみや 速かに な 成らんことを ほつ 欲する者なりと。(憲問第十四・47)

「闕」は孔子の生まれ故郷、「党」とは500軒くらいの家の単位です。

孔子が村の少年を呼んで、お客様の取り次ぎをさせました。

ある客人が「この子は、相当に学問が進んだ優秀な童ですか」と尋ねました。

孔子が答えました。「そうではありません。中央の成人が座る席に平気で座っている。お年寄りの先生のお供をするにも、先生と並んで歩くのを見ました。学問を熱心に学んで自分のレベルを向上させようとするような者ではありません。すぐさま一人前になろうとしている者なので、長幼の序を教え、礼儀作法を学ばせるために取り次ぎの役をさせております。」

よその会社に行った時、取り次ぎ役をする者がいたとすれば、かなり実力のある人間が出てくるのか、それともかなりレベルが低い人間が出てくるのか、意識してご覧になると良いでしょう。

② 孔子曰く、<sup>こうしいわ</sup>益者<sup>えきしやさんゆう</sup>三友、<sup>そんしやさんゆう</sup>損者<sup>ちよく</sup>三友。直<sup>ちよく</sup>を友とし、<sup>りょう</sup>諒<sup>とも</sup>を友とし、<sup>たぶん</sup>多聞<sup>とも</sup>を友とするは益<sup>えき</sup>なり。<sup>べんべき</sup>便辟<sup>とも</sup>を友とし、<sup>ぜんじゆう</sup>善柔<sup>とも</sup>を友とし、<sup>べんねい</sup>便佞<sup>とも</sup>を友とするは損<sup>そん</sup>なり。(季氏第十六・4)

自分の益になる友達、自分の損になる友達が、それぞれ三種類いる。

友達を選びなさいと孔子が言っています。

益者とは、自分にとってプラスになる友人です。

○直（直言してくれる人物）・・・自分の過ちを教えてくれる友人は大事にした方が良い。

○諒（誠実で表裏のない人物）・・・誠実でありたいと考え実行している者を友とすれば、その影響を受けて、自分も誠実でありたいと思い実行するようになるから、友人にするが良い。

○多聞（古今東西の知識に通じている人物）・・・博識の人間と付き合い合えば、自分も知らず知らずに知識が増えるから良い。

ちなみに、学問には縦の学問（哲学）と横の学問があります。横に広がる学問は、知識が身に付いて来る。縦の学問は、自分はなぜこの世に生まれたか、なぜ生きるか、哲学を考える学問です。この場合の「多聞」は、知識（横の学問）が広がるとお考え下さい。

損友とは、自分にとってマイナスになる友人です。

○便辟（体裁だけ整える人物）・・・直言しないから、自分の過ちを聞くことが出来ない。そういう人間は友達にしない方が良い。

○善柔（媚びへつらう人物）・・・おべっかばかり使う友達は、自分も知らず知らずの間に不誠実で心にもないお調子を言うようになってしまう。

○便佞（口先だけ達者で中身がない人物）・・・佞人で捉えればよろしいでしょう。こういう友人と付き合い合っていると、自分自身の知識がどんどん低下して、自分のレベルが落ちてしまう。

③ 孔子曰く、<sup>こうしいわ</sup>益者<sup>えきしやさんらく</sup>三楽、<sup>そんしやさんらく</sup>損者<sup>れいがく</sup>三楽。礼<sup>せつ</sup>樂<sup>たの</sup>を節<sup>ひと</sup>することを<sup>ぜん</sup>楽しみ、<sup>い</sup>人の<sup>い</sup>善<sup>い</sup>を<sup>い</sup>道<sup>い</sup>うことを<sup>い</sup>楽しみ、<sup>たの</sup>賢友<sup>けんゆう</sup>多<sup>お</sup>きことを<sup>たの</sup>楽しむは、<sup>えき</sup>益<sup>きようらく</sup>なり。<sup>たの</sup>驕<sup>いつゆう</sup>樂<sup>たの</sup>を楽しむ、<sup>えんらく</sup>佚遊<sup>えんらく</sup>を楽しむ、<sup>たの</sup>宴樂<sup>えんらく</sup>を楽しむは<sup>そん</sup>損<sup>たの</sup>なり。(季氏第十六・5)

自分の為になる楽しみ、損になる楽しみが、それぞれ三種類ある。

益者三樂とは、自分のプラスになる楽しみです。

○礼樂を節する・・・礼の制度や音楽を、溺れるのではなく、ほどほどに楽しむのはとても良い。

○人の善を道う・・・人の善言善行を、あの人は良い人間だと褒める。すると自分もそういう人になるよう努力するようになるから、おやりなさい。

○賢友多き・・・誰が見ても素晴らしい友人を沢山持つことは大変良い。

損者三樂とは、自分のマイナスになる楽しみです。

○驕樂・・・驕り高ぶるのは良くない。

○佚遊・・・家庭を放って外で遊び惚けるのは良くない。

○宴樂（酒食荒淫）・・・酒に溺れて異性に溺れるのはおやめなさい。

#### 時事評論 — 令和4年を考える —

今朝の日経新聞に「反撃能力保有を閣議決定」とありました。群馬県の上毛新聞には「安保三文書閣議決定」とありました。これを見て感じたことは、安保三文書とは何なのか、それから閣議決定とは一体何なのかと思いました。

今、ロシアとウクライナが喧嘩をしている最中です。ウクライナにはアメリカをはじめNATO諸国がついて、ウクライナ・アメリカグループは結構喧嘩に強そうですし、実際に強い。ロシアは仲間をもう少し増やしたいということで、表面的には中国を仲間に入れ、北朝鮮も入れました。他にも名前は出さないけれども仲間の国をどんどんどんどん増やしています。

世界のグループは、ロシア・中国を中心としたロシアグループとアメリカグループに分かれるわけですが、日本はアメリカグループの中にはっきり入っている状態です。しかも、今まではアメリカの後ろに付いて、「我々も戦うぞ」という声だけ出していけばよかったものが、今度は殴り合いの喧嘩の中にまで入らなければいけない状態になってきています。

そこで、日本としては相手が殴ってきたら日本も殴り返すという意味を見せつけておかないと本当にやられてしまうので、出て来たのが安保三文書です。一つは、「国家安全保障戦略」で、平成25年2月に作られています。二つ目は、新聞によって「国家防衛戦略」と言ったり、「防衛計画の大綱」と言っていますが、これが平成30年12月に作られています。三つ目が「防衛力整備計画」で、同じく平成30年12月に作られています。

「国家安全保障戦略」は、日本の国が攻められた時どうやって国や国民を守るか、基本

的な戦略です。「防衛計画の大綱」は、戦略という言葉を使いますが、実際には長期にわたる計画を練ったものです。「防衛力整備計画」は、「中期」と表現されて、具体的には5年間です。これは、殴り返す時に体力がないと困るから、そのためのお金がどれぐらい必要かということで、平成30年に作った時は27兆4000億円を目途にしています。今回の閣議決定では43兆円に嵩上げしました。向こうが本気で喧嘩をする気だから、こちらも本気で43兆円を用意するぞ！ということを出したわけです。

防衛力を整備し反撃能力を持ったということですが、反撃能力とは、日本の国にミサイルが撃ち込まれたり、向かってきている時に空中で迎撃したり、二の矢・三の矢の攻撃が出来ないように相手のミサイル発射地点などをたたくことです。ただ、ここら辺は色々な縛りが入っているので、相手が先に喧嘩を売ってこない限り、自分から攻めることはしないとずっと言い続けています。ですから言葉の遊びばかりしている感じが致します。

もう一つ気になるのは、閣議決定という言葉です。閣議決定は内閣がするわけですが、大臣が全員一致で賛成し署名押印をしなければ効力を発しません。一人でもNOと言え、成立しないわけです。過去を見ると、イラン・イラク戦争の際、アメリカから自衛隊の派遣を頼まれ、当時の中曽根内閣が閣議決定をして自衛隊を海外派遣しようとするのを、後藤田正晴官房長官が「私は全力でこれを阻止する」と言って署名しませんでした。それで閣議決定がひっくり返ってしまったという事実があります。

閣議決定が成立したら、行政権のトップに位置するのは内閣ですから、行政的にそれを実行させることができるわけです。その後、国会を通さなければならないものについては国会を通して、法律として規定をするということになりますので、閣議決定は法律の前段階であると思ってよいでしょう。ただ、閣議決定するとほとんど自動的に行政が動いてしまうから、法律まで進めることは大変なことです。

ということで今日新聞に載っていた反撃能力保有の三文書閣議決定は、勝手にやっているように見えるけれども、かなり重いものだと捉えています。

### 「癸卯」・・・令和5年考える

では、そこら辺も踏まえて来年はどういう年になるか申し上げます。来年の干支は癸卯（きぼう・みずのとう）です。「癸」は百事を統べる官職、総理大臣という意味です。「卯」は繁栄です。私は皆様にお送りする四季だよりの年賀状に、「癸は総理大臣 卯は繁栄・没落」と書きました。能力のある総理大臣が誕生すれば、日本は繁栄していく。無能力な総理大臣が誕生すれば、私は最初「滅亡」と書きましたが、大野参与と話をしていた「没

落」の方がいいという話になりました。滅亡は消えるということの意味ですが、いっぺんに日本は消えず徐々に落ちていくので「没落」としました。

私は先週の東京フォーラムで、「岸田さんが来年一年もつわけがない」と言いました。会員の中には、「来年は衆議院選挙がない。選挙でベタ負けすれば当然辞めるでしょうが、今までの自民党の歴史を見れば、そんな簡単に辞めないのでは・・・」と言う方も何人かおられました。そこら辺は承知の上で、岸田さんは辞めざるを得なくなるだろう、詰められるはずだと感じていますので、素直に申し上げます。

したがって、来年は繁栄するか没落するか、分かれ道となる年です。分かれ道ですから、目に見えてははっきり分からないけれども、一生懸命考えて調べた人は、繁栄に至る道を進み出してよかった、或いはこれからどんどん落ちていくなあと感じることでしょう。心ある者には繁栄か没落かがくっきり見える年である。そう「知足」の新年号にも書かせて戴きました。

更に、歴史的に見ると、人災と自然災害の大きなものはだいたい同時に来ます。ですから来年は大津波であるとか大地震、大火災といった大きな災害も来るだろうと考えています。

人災であれば、前から申し上げている有事、最近で言えば台湾有事があります。台湾有事が起きれば、日本有事が起きます。2003年に中国人民解放軍が公表した「三戦」（世論戦・心理戦・法律戦）を駆使して相手の国民の戦意を喪失させるという流れが、このところ非常に進んでいると感じます。それを真似てロシアはハイブリッド戦を仕掛けてクリミア半島を占領下に入れ、今その続きをしています。

台湾有事に備えて日本がどういうことをするか、最近の動きで申します。日本はずっとアメリカ頼みと言い続けてきましたが、最近アメリカ離れも始めています。この間、日・英・伊で戦闘機を共同開発することで合意しました。今までは、アメリカの核の下に入るということで自分では戦わない、「アメリカさん助けてね」という言い方でしたが、ウクライナが自前の戦力を持ち自分で戦う意思を示してロシアに対抗している姿を目の当たりにして日本政府は、アメリカはウクライナに金と武器だけを送っている、日本もそういうことになるだろうと想定したのでしょう。アメリカが守ってくれなければ自分で戦わなければならないから、イギリス・イタリアと手を組んだ。日・英・伊同盟のようなものです。

日本国内では海上保安庁と海上自衛隊が、日本が攻撃された場合を想定して、初めて共同訓練を予定しました。来年はどんどん進めるでしょう。自衛隊の中身で見れば、海上自衛隊は2025年に2000人規模の情報戦基幹部隊を新設すると発表しました。日本有事の際

は、ロシア・中国・北朝鮮の三国は日本に対して武力で攻めてくるのではなく、先にサイバー攻撃を仕掛けるという意思表示をしています。それを前提に置いて、海上自衛隊にサイバー攻撃に対応する情報戦基幹部隊を作るということを日本は意思表示したわけです。陸上自衛隊は、偽情報を見抜いて対応する偽情報対応部隊を新設する方向で調整を始めました。こちらも仕掛けるという意味になります。航空自衛隊も、宇宙において同じような反撃能力を強化することになります。今、ウクライナが反撃能力を持っているのは、イーロン・マスク氏から衛星通信設備を提供してもらい、正確な情報のもとにピンポイントで攻撃をしているからです。

これらを踏まえると、台湾有事、日本有事になった時にはどうなるか。今申し上げた中国の「三戦」という言葉から押せば、中国は先ず金を抑えるでしょう。ロシアがウクライナを攻めた時、アメリカは自国にあるロシアの金融資産を抑え、凍結し、没収しました。この前段階を中国は台湾に対してやるでしょう。

それからサイバー攻撃です。これは或る日突然ではなく、少しずつ少しずつ台湾のインフラを攻撃する。ネットが使えなくなる、スマホが使えなくなる、テレビやラジオがつかなくなる、無線も使えなくなる…といったサイバー攻撃です。同時に、その時アメリカの艦隊が来ていれば、サイバー攻撃をして、台湾が攻められている情報をアメリカ艦隊が捉えられなくするでしょう。

更に、デマです。台湾の政治家や有力者、特に総統クラスの人に関するデマを流す。あの人は私腹を肥やしているとか、悪事をしたというデマを台湾の中にどんどん流していく。

そういうことを9割ぐらい台湾に仕掛けたら、日本に対しては1割ぐらいの比率で同じ攻撃をしたいと思います。例えば、台湾有事が近づけば近づくほど、日本の政治家に対して不信感が高まるようなデマが流れる。ある日突然、日本各地で停電が起きる。それから日本漁船が攻撃される。今までも中国漁船が日本漁船に体当たりするようなことをやっていますが、例えば漁船の形をした中国の軍船が、間違えたという体で攻撃をしてくる。日本は具体的にそういう攻められ方をするだろうと思っています。

そのために日本は何をするかという、今まで日本は借金で生きてきたわけです。大地震が起きたり大災害が起きたなら、国債を発行して借金で何とか回していました。ところがもう借金は出来ないところまで来ています。何故ならば、金利が各国で上がりました。アメリカが率先して上げました。しかし、日本は金利を上げれば一気に日本が潰れていく流れに乗っかることになるから、どうにもならない四面楚歌の状況になっている。ですからどうしても岸田さんは税金を上げざるを得ないわけです。

そこで言い方としては、これから未来を担う若者たちに借金を残してはいけない、国債を増やしてはいけない、やはり自分たちの力で、自分たちの身を守る能力をつけたい・・・だから税金を取るしかありません！ という言い方で今回の閣議決定をしました。防衛に関する費用1兆円を税金でとりましょう。法人税、所得税、たばこ税を上げましょう・・・苦し紛れによく捻り出してきたと思います。

その中で直接我々に関係ある話は、マイナンバーとかインボイス制度です。こういったものは増税に直結します。マイナンバーカードが国民全部に行き渡るということは、国民一人残らず増税の対象になる。そういうふうに持っていきたくて、政府は必死になってマイナンバーを広げているわけです。ちょっと狂っていると思うのは、健康保険証や運転免許証まで一緒にしてしまうと言っています。そうすればマイナンバーカードを持たざるを得ないだろうという思惑が透けて見えるわけで、そうなった結果は税金がどんどんかかってくる。インボイス制度も同じです。消費税を払ってない所、売上1000万以下の自営業の人など、消費税を自分の収入にしている人は、全部税金として納めてもらうというわけです。

お時間になりました。来年、日本は有事に巻き込まれる可能性が非常に高い。日本有事が起きる可能性があると思っています。ということは、我々は自分で自給自足しなければなりませんし、お金も使えなくなってくるでしょう。自分で自主独立をしていくための方法を考えなければいけません。日本という国家も、そうせねばならないと思っています。ですから来年は、緊張・緊張・そして行動、そういう年回りになると思っています。結果は、「癸卯」ですから、その先に見えるものは、総理大臣が良いか悪いかによって、繁栄か没落かです。

その分かれ道であることを自覚して、分かれ道の時に持つべきものは何か、自分に身につけるものは何か、そして自分はどういう行動をするか、これを1年間ずっと考え続け、行動し続ける年回りです。万が一、途中で本当にミサイルが飛んできた場合には、即行動ということに繋がります。

少し怖い話を致しましたが、来年は目をパチッと開ける年だとお考えいただいて、本年の最後のお話と致します。

どうぞよいお年をお迎え下さい。有難うございました。

